

| | 9日 17h-20m | 10日 10h-20m | 11日 13h-20m | 12日 14h-20m | 13日 16h-20m | 16日 16h-20m |
|------|------------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| 経過時間 | 水を取り絞りは 1時間目 | 18h | 21h | 46h | 96h | 166h |
| 気 候 | H. 21.6°C L. 17.7°C | H 22.5 L 18.3 | H 22.3 L 18.3 | H 24.3 L 19.3 | H 25.8 L 20.9 | H 24.8 L 19.2 |
| 照 度 | 平均 78% | 85 | 83 | 76 | 88 | 76 |
| A | 5斤 - 2232 | 5- 15 | 4- 663 | 2-1726 | 2- 828 | 1-1226 |
| B | 1 - 886 | 1- 636 | 1- 486 | 1- 61 | 0-1186 | 0- 911 |
| D | 1 - 1066 | 1- 846 | 1- 611 | 1- 246 | 0-1366 | 0- 911 |
| E | 1 - 1042 | 1- 822 | 1- 596 | 1- 47 | 1- 42 | 0- 306 |
| 計 | 11 - 19 | 9- 969 | 8-1075 | 6- 479 | 5- 272 | 1- 37 |

備考 Aの10日より11日にかけて斤減りの激しいのは取り不足のため

海人草増殖適期調査

1. 趣 旨

琉球に於ける輸出水産物中海人草は腰節、貝類に次いで第三位を示めてはいるが、生産量の殆んどが管外出漁によるものであるため、輸出までの諸経費やストック費の多寡によって輸出来としては不安定の態勢を示めしているようである。此のため海人草の増殖適期を知る事によりアが増殖生産を管内において容易に普及実用することが出来たら産業の安定は勿論、業者に益する処が大きいと思われるので本年より継続実用する事とした。

2. 方 法

縦横各1尺5寸、厚さ2寸のセメント平板で中央に5寸角穴あきとし、之を10盤1組として各組毎に異なる一連番号の記号を刻し此の盤に種石から海人草種苗を養生させるようにした。10盤1組のセメント盤は半月毎に投食し前回分の盤より種石を除去し同種石を新しい盤に嵌入して継続して同種石による種苗の養生状況を知る。

種苗は海人草の自然養生のものを岩礁と共に取り取って之を採苗用母藻としてセメント盤に嵌入する。此の種石は以後継続して母藻として使用し従って此の母藻による増殖の進退を知る事にした。

圖 10-10

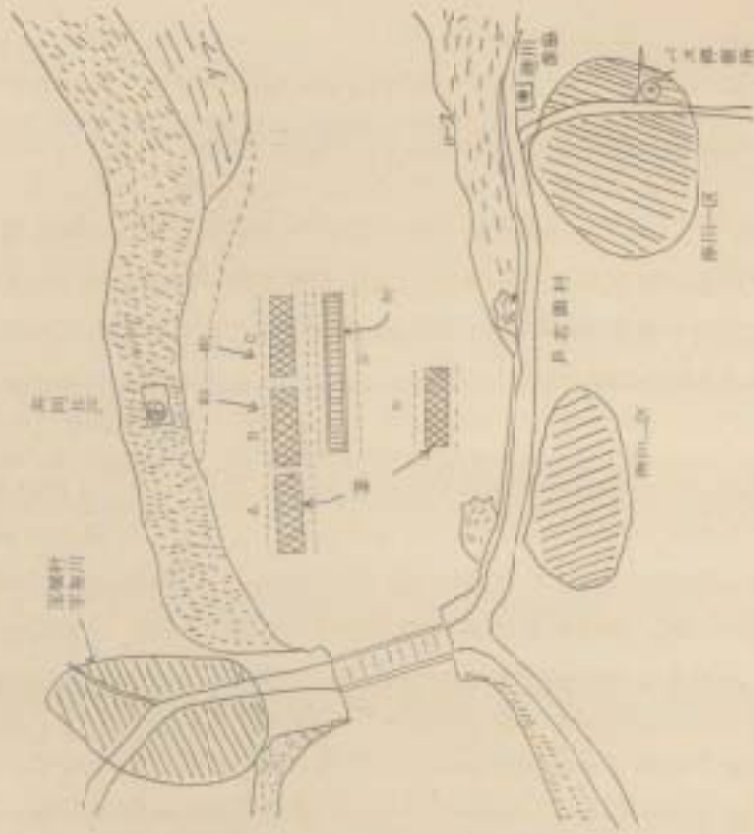


圖 10-11 網架構造圖

